

沖縄県内における肉用山羊の病気



令和4年3月

(公益社団法人)沖縄県家畜改良協会

はじめに

本誌の発刊にあたり一言ご挨拶申し上げます。

皆様には常日頃より当協会の業務に格別のご理解、ご協力を賜り心より御礼申し上げます。

畜産を取り巻く情勢がめまぐるしく変わる中、和牛の高値での取引、山羊に関しても安定した取引で推移して参りました。

しかしながら、猛威を振るう新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置により人流の抑制等で食の流通が鈍化する中、本県でも大きな打撃を受けており、一刻も早い終息を祈るばかりであります。

さて、本県では山羊は昔から島山羊（シマヒージャー）として親しまれ、また、貴重なタンパク源として食されてきました。

元来、島山羊は小型の山羊で、1頭当たりの枝肉重量は低いので、大型化するために外国品種（ザーネン種、ヌビアン種等）を導入し、島山羊のなかでも特に大型の山羊に交配し改良を重ねた結果、他県には見られない本県独自の肉用山羊が誕生しました。また、更に改良を加えるべく肉用種のボア種の導入で歩留まりの良い山羊づくりにも成功致しました。しかし、大型化への改良に成功した一方、問題点もいくつか出てきました。

その一つとして、大型化への改良に乳用種が多く使用されており、分娩時の乳量が多く、乳房の拡大で乳房炎や子山羊の授乳に関して障害や、多産系の山羊は一回での産子数が4頭以上にもなり、難産や残子等の事故も多く発生しています。かつての放牧形態の飼育から一部は高床式の山羊舎への移行もあり、更なる山羊管理の徹底が求められます。

また、長命多産の観点から、生産農家の皆様においては削蹄や病気に対する知識や処置に対してどうすれば良いかという今後の課題があります。

さて、本県の山羊経営の状況を見ると令和2年度は飼養戸数1,368戸、頭数は11,984頭で、山羊のセリ価格の推移（南部家畜市場）は、平成29年は1キロ当たりの平均が雄で1,200円、雌で1,000円でしたが、令和3年では雄で952円、雌で542円まで下がっています。価格低迷の一番の原因是新型コロナウイルスによるヤギ肉消費の落ち込み等が考えられますが、新型コロナウイルスの終息に伴い消費拡大が進んだときに、供給において備える必要があり、そのためには多くの山羊を生産し繋げることが重要になってきます。

先に述べましたが、生産性を良くする大型化への改良等による事故や疾病に対し、個々の生産農家においても現場での緊急的処置に対応出来る知識や技術を備えておく必要があります。

今回発刊となりました「沖縄県内における肉用山羊の病気」は県内で山羊の治療や飼育管理の指導を行われている野中克治先生が本会と共に発行するもので、この本は山羊飼育のためのバイブルとなり、山羊農家をはじめ、山羊治療に携わる関係者の皆様も待ち望んだ一冊といえます。

山羊をこよなく愛し、山羊を飼育している皆様の指南書として手に取って頂き、ご活用していただければと存じます。

最後に、今回本誌出版にあたり、長年現場で培われた知識、技術を惜しみなく提供して頂きました野中克治先生に深く感謝申し上げ発刊の挨拶と致します。

公益社団法人 沖縄県家畜改良協会
会長 伊保 俊彦

発刊にあたり

沖縄の山羊との関わりは、県を退職前の4年間、山羊の研究・人工授精師の養成に従事したのが始まりです。山羊の研究の目的は肉用山羊を産業として発展させることにありました。この仕事を進める上で山羊に関する情報を探しました。しかし、国内には山羊の飼養技術に関する本は少なく、山羊の病気に関しても簡単に紹介している程度でした。私たち獣医師も、山羊の病気は同じ反芻家畜である牛と同様に考えて対処していたため、特別に山羊の獣医学書は必要としていませんでした。しかし、講習会や山羊の飼養農家と交流する中で、山羊の農場では突然死や起立不能がしばしば発生していることを聞きました。現場ではどんな病気が発生しているのか、牛との違いがあるのではと考え始めました。そこで退職を機にこれらの疑問をすこしでも解決してようと思い、山羊の診療を開始しました。

山羊は牛に比べて価格が安く、医療費を十分にかけられないことは世界中の山羊飼養者の共通の課題です。そのため、山羊飼育の伝統ある国々では、日常から山羊の健康に十分配慮して、症状の軽いうちに対処することが実践されています。このことは、日本の山羊の飼養者も学ぶ必要があると感じます。山羊においても牛、豚などの家畜と同様に、突然死や起立不能になる前になんらかの症状があるはずです。「肉用山羊の病気」はこの4年間に実際に遭遇した病気の一部を掲載しました。どの農場でも発生する病気なので、病気の早期発見の参考にしていただければと思います。マニュアルの作成はスタートしたばかりなので、飼養者および獣医師の方々には、誤りや、よい民間療法あるいは治療方法があれば指摘してほしいと思います。また、以降も追加および改訂を続けて、利用しやすいマニュアルになればと考えております。

獣医師 野中 克治

目 次

| | |
|------------------|----|
| はじめに | 1 |
| 発刊にあたり | 3 |
| 病気かな?と思ったら | 6 |
| 神経の病気 | |
| ① 腰麻痺(指状糸状虫症) | 8 |
| ② 大脳皮質壞死症 | 9 |
| ③ 破傷風 | 10 |
| 眼の病気 | |
| ④ 眼病 | 11 |
| 呼吸器の病気 | |
| ⑤ 肺炎 | 12 |
| 消化器の病気 | |
| ⑥ フロッピー・キッド症候群 | 13 |
| ⑦ コクシジウム症 | 14 |
| ⑧ 子山羊の下痢症 | 15 |
| ⑨ エンテロトキセミア | 16 |
| ⑩ 第一胃鼓張症 | 17 |
| ⑪ 捻転胃虫症 | 18 |
| ⑫ 消化不良(アシドージス) | 20 |
| 代謝の病気 | |
| ⑬ 産褥麻痺(低カルシウム血症) | 21 |
| ⑭ 子山羊の低体温(症)と低血糖 | 22 |
| ⑮ 妊娠中毒(ケトン症) | 24 |
| 周産期の病気 | |
| ⑯ 不妊症 | 26 |
| ⑰ 流産と死産 | 27 |
| ⑱ トキソプラズマ症 | 28 |
| ⑲ レプトスピラ症 | 29 |
| ⑳ 難産と難産介助 | 30 |
| ㉑ 膨脱 | 32 |
| ㉒ 乳房炎 | 33 |
| ㉓ 胎盤停滞 | 34 |

泌尿器の病気

②4 尿道結石症 35

皮膚・被毛の病気

②5 伝染性膿疱性皮膚炎(オルフ) 36

②6 乾酪性リンパ節炎 37

②7 蜂窩織炎(フレグモーネ) 38

②8 シラミ症 39

②9 疥癬(ヒゼンダニ) 40

③0 毛包虫症 41

肢の病気

③1 子山羊の関節炎 42

③2 山羊関節炎・脳脊髄炎(CAE) 43

③3 趾間部の皮膚炎と腐蹄病 44

参考文献 45

著者プロフィール 45

資料 47



沖縄県内における肉用山羊の病気

発行所—(公益社団法人)沖縄県家畜改良協会

郵便番号:903-0804

電話:098-987-0474

FAX:098-987-0476

メール:kairyō106@olia.or.jp

印刷製本:株式会社 池宮商会

販売価格:定価